

第 25 回くまもと自然保護講演会記録

- 1 日 時 2020 年 1 月 13 日 (成人の日) 14:00~16:00
- 2 場 所 熊本県民交流館パレア 9 階 会議室 1
- 3 参加者 71 名 (阿蘇地区パークボランティアの会、阿蘇の自然を愛護する会、天草自然公園ボランティア協会、NPO 法人くまもと未来ネット、熊本記念植物採集会、熊本自然環境研究会、熊本野生生物研究会、自然観察指導員熊本県連絡会、日本野鳥の会熊本県支部、水俣芦北自然観察会、八代植物友の会、八代野鳥愛好会、矢部郷自然観察会、熊本県自然保護課、一本の木財団、一般参加者)

講演 『ジオパークとしての大地の遺産の保全・保護』

天草市立御所浦白亜紀資料館館長 長谷 義隆 氏



〈講演趣旨〉

○天草の大地の特質

天草の大地は、1 白亜紀以前に大陸があった、2 恐竜がいた白亜紀のころの御所浦層群と姫浦層群、3 恐竜絶滅後哺乳類が繁栄し始めた古第三紀のころの地層群、4 火山活動による岩石と火山活動に伴ってできた地層、という 1234 の順にできました。

‘天草の石’として、姫戸石灰石(生石灰やセメントなどに利用)、下浦石(石橋などに利用)、天草無煙炭、天草陶石(有田焼などの陶磁器に利用)、天草石(砥石や木目石として利用)などがあり、

様々に利用されてきました。

○ジオパークについて

ジオパークは、地形地質的に見て価値の高い場所である大地の遺産を多数含む地域であり、この大地の遺産を保全し、教育に活用して、ジオツーリズムによる地域の持続的な発展を目指すものです。ジオツーリズムとは、地形・地質を中心として、生態系、さらには地域の歴史・伝統・文化を対象とする観光のことです。

天草地域は日本ジオパークの「天草ジオパーク」に認定されています。

○天草ジオパーク御所浦エリアにおける地質・化石と生態系の保全の例

1) アンモナイト館の建設…御所浦町牧島にある「アンモナイト館」は、九州最大級のアンモナイト化石が見学できる施設です。このアンモナイトはもともと海岸に露出していて、海岸道路整備で埋没する予定でしたが、地元の要望やその重要性から、「全島博物館構想」計画の一環として保護・観察施設「アンモナイト館」が建設され、地層中にあるがままの状態が観察できるようになっています。

2) スフェノセラムスの壁…牧島の椀の木集落付近斜面に、無数のスフェノセラムス(二枚貝の一種)および生痕化石があります。現在アクセス路が整備され、露頭の一部を観察することはできますが、ハンマーなどによる採取行為は禁止されています。学術的価値が高いもので、専門家による詳細な調査が期待されます。

3) 化石採集場での化石採集体験…資料館近くに「トリゴニア砂岩化石採集場」(トリゴニアは二枚貝の一種)が設置されています。もともと道路拡張工事の予定地で、現在道路の壁の一面を露頭のまま残し、地層と包含されている化石の観察ができるようにしています。化石採集場には別箇所の採石場跡の崖から自

然崩落してくる落石を集めて運び入れ、また2~3年毎に岩石を入れ替えています。このように地層を人為的に崩さず、自然現象を利用した形で運用を行っています。

4) アンモナイト産出地点を保全するために架橋の位置を変更…御所浦島の前島を経由して御所浦島と横浦島間に橋を渡す工事が始まった時、工事用の足場設置予定地に、アンモナイトが多く産しその産状がよく観察できる地点がありました。御所浦町は架橋設置地点の変更を熊本県に進言し、資料館は日本古生物学会と日本地質学会に協力を求め、両学会から貴重な化石保全についての嘆願書を熊本県に提出してもらい、地点変更を実現させました。

5) 恐竜足跡化石の移転…1997年、御所浦町弁天島の海岸に肉食恐竜の足跡化石が発見されました。この足跡化石のある海岸は常に海水に晒され、風化や波による侵食作用を受けている状況にありました。そのままの状態ではやがて足跡化石は消滅してしまうことが懸念されましたので、これを切り取って資料館に展示し、現場にはそのレプリカを埋め込んで現地での観察に供しています。

6) 道路工事による白亜紀魚類化石の産出…御所浦島-横浦島架橋計画路の工事の際、掘削された露頭の中に魚類化石があるとの情報が工事関係者から資料館に寄せられました。資料館の学芸員は直ちに現場に行き、相当量の岩塊を確保することができました。その魚類化石について北九州市立自然史・歴史博物館の籾本美孝博士とリオデジャネイロ州立大学パウロ・ブリトー博士に研究の協力を依頼し、このたび古生物学の国際誌に新種 *Amakusaichthys goshouraensis* として記載され、和名はアマクサゴシヨウラムカシウオと名付けられました。

7) 生態系の保全…「アンモナイト館」の近くに姫浦層群の黒色頁岩の露頭があり、そこにはツメレンゲが自生し、それを食草とするクロツバメシジミ朝鮮半島亜種が生息しています（ともに絶滅危惧種）。ここに生態系保護についての説明板が設置され、住民や資料館学芸員は日常的に露頭の保全を心掛けています。来島者にツメレンゲおよびクロツバメシジミについての生態系に関する教育活動も行われています。牧島のツメレンゲは姫浦層群の泥岩が風化して細かく砕けた礫状のところに生えていますが、道路工事などで崖が生じて直ちにコンクリートで覆われるなどで生育域が狭まっていることから、その分布は天草においても次第に減少しています。その意味でもこのような形での生態系の保全を心掛けています。

○天草ジオパークとしての大地の遺産の保全・保護の考え方

- 1 天草には大地の成り立ちに基づく、恵みとしての地下資源が多種存在し、これまでにその活用が計られてきました。
- 2 多種の石橋があるように大地の恵みが文化遺産として保全されています。
- 3 恐竜をはじめ、大型哺乳類化石、アンモナイトなどの頭足類、イノセラムス、トリゴニアなどの二枚貝化石が豊富に産出します。
- 4 採石場後で自然崩落した落石を利用し、トリゴニア砂岩化石採集場で化石採集体験ができます。
- 5 化石採集場が設けられていることより、御所浦町に分布する地層から直接化石採集などの行為は行わないことにしています。
- 6 トリゴニア砂岩化石採集場から得られた化石は持ち帰ることができますが、貴重な化石は資料館へ寄贈して頂き、展示や研究にご協力して頂くようお願いしています。
- 7 お持ち帰り頂く化石についてもラベルを添付するなど標本としての扱いをしてもらえよう、資料館の学芸員は教育的な配慮を心がけています。